

単元名

米粉の商品開発を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう

～自分たちは大和町とどのように関わっていけば良いのか？～

本単元で特に育成する資質・能力 言語能力（伝える）

1 日 時 令和6年10月15日（火）5校時 13:45～14:35

2 場 所 1年A組教室

3 学年・学級 1年A組・わかたけA組・わかたけB組 34名（男子15名 女子19名）

4 単元設定の理由

(1) 単元観

三原市大和町はレンコンやネギや米粉などの特産品が多い地域ではあるが、人口減少が進んでいる地域でもある。そして、この地域の方々には「地元の産業を守り、地域を活性化させたい」という課題を抱えている。本単元は、この地域が抱える課題を地元企業「増田製粉株式会社」、そして地域法人「おせっかいさん」と共に解決する過程の中で、探究的に学び、資質・能力を育成・発揮する単元である。

この単元の本質的な問いは、「自分たちは大和町とどのように関わっていけば良いのか？」である。また、この問いを生徒と共に考えるために、単元を貫く問いを「自分たちの町を盛り上げるためには、どうすればよいのか？」と設定した。

(2) 生徒観

生徒は、小学校の総合的な学習の時間で、大和町を題材にした課題解決に取り組んできた。これまでの学習を振り返り、探究的に学習を進めることに関して、33名の生徒にアンケートを実施した。その結果は次のとおりである。

| 質問 | 肯定的回答率 |
|--|------------|
| ①自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動の中で、「課題の設定」をすることができる。 | 78.8%（26名） |
| ②自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動の中で、「情報の収集」をすることができる。 | 96.7%（32名） |
| ③自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動の中で、「整理・分析」をすることができる。 | 90.9%（30名） |
| ④自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動の中で、「まとめ・表現」することができる。 | 81.8%（27名） |
| ⑤地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか。 | 96.7%（32名） |

探究的に学習を進める中で、「課題の設定」および「まとめ・表現」に課題を感じている生徒が他の過程よりも多いことがわかる。

また、育成を目指す資質・能力（知識及び技能以外）に関して、授業や日常生活の中で発揮できているか調査するために、7月に32名の生徒にアンケートを実施した。その結果は次のとおりである。

| | よく当てはまる | やや当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない | 肯定的回答率 |
|------------|---------|---------|------------|-----------|--------|
| ①情報活用能力 | 12 | 17 | 3 | 0 | 90.6% |
| ②言語能力（伝える） | 10 | 16 | 6 | 0 | 81.3% |
| ③言語能力（聞く） | 16 | 13 | 3 | 0 | 90.6% |
| ④主体性 | 9 | 19 | 4 | 0 | 87.5% |
| ⑤自己理解・他者理解 | 21 | 11 | 0 | 0 | 100% |

大和中学校区で共通で設定している資質・能力に関して、「言語能力（伝える）」および「主体性」に課題を感じている生徒が他の資質・能力よりも多いことがわかる。

(3) 指導観

この単元の指導に当たっては、次の4点に留意する。

1点目は、地域が抱える問題の解決を探究課題として設定することである。生徒はこれまで小学校での総合的な学習の時間を中心に、地域の問題の解決に取り組んできている。その成果もあり、「地域や社会をよくするために、何かしてみたい」と考えている生徒の割合が高い。この結果から、地域の問題解決は、生徒が探究的に学習を進めていく課題として適していると考えられる。

2点目は、「課題の設定」を段階的に育成することである。「課題の設定」に課題を感じている生徒がいることを踏まえ、「複雑な問題状況の中から課題を発見し、設定すること」と「解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てること」を段階的に指導する。手立てとして探究のサイクル2周目では、課題を発見し、設定することを重点とし、「大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をするか設定すること」を指導する。また、探究のサイクル3周目では、確かな見通しをもって計画を立てることを重点とし、「イベントの反省を踏まえ、商品販売イベントに向けて何をすべきか見通しをもって計画を立てること」を指導する。

3点目は、「言語能力（伝える）」を育成するためのプレゼンテーションの場面を設けることである。「まとめ・表現」と「言語能力（伝える）」に課題を感じている生徒がいることを踏まえ、手立てとしてプレゼンテーションの場面では、「事実」と「意見」の区別をつけるために、それぞれを別のスライドページに分けてまとめるようにひな型を用意する。事実にはアンケート結果および米粉の特徴、意見には商品の特徴や商品名に込めた思いを述べるように指導する。さらに、各教科の授業でも、言語能力（伝える）を育成できるようにカリキュラム・マネジメントを行う。とりわけ、1学期の技術分野の授業で実施した自分の栽培目的に合わせて、肥料や支柱などの道具をその特徴（事実）をもとに選択し、その理由（意見）を述べる学習との関連を図る。

4点目は、複数の選択肢を設定し、生徒に自己決定させることである。「主体性」に課題を感じている生徒がいることを踏まえ、主体的に学習に取り組んでもらうために、探究のサイクル2周目の活動では、取り組むべき課題の中から自分の良さを発揮できる課題を選択する機会を設ける。

5 単元の目標

- 大和町の魅力発信を目的とした米粉の商品開発・販売を通して、課題解決には地域全体が目的を共有して取り組む必要があることを理解し、課題解決に向けた計画を考え、課題解決に向けて協力して取り組もうとする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <p>【①知識】 大和町の魅力発信の実現には、そこに存在する問題の解決に向けて、学校や地域が目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。</p> <p>【②技能】 米粉の魅力の発信活動（商品開発、商品販売イベント）を、目的や対象に応じて適切に実施している。</p> <p>【③探究的な学習のよさの理解】 大和町が抱える課題に対する学校と地域の取組についての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p> | <p>【④-1 課題の設定】 プレイベントの反省を踏まえ、商品販売イベントに向けて必要なことを設定している。</p> <p>【④-2 課題の設定】 大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をすべきか見通しをもって計画を立てている。</p> <p>【⑤情報の収集】 商品開発に必要な情報を収集する手段を選択し、種類に合わせて情報を蓄積している。</p> <p>【⑥整理・分析】 アンケート結果および米粉の特徴から傾向を明らかにし、根拠をもってターゲットと商品のジャンルを設定している。</p> <p>【⑦まとめ・表現】 事実（アンケート結果および米粉の特徴）と意見（自分たちの商品に対する考え）を区別して伝えている。</p> <p>※資質能力「言語能力（伝える・聞く）」が発揮される活動</p> | <p>【⑧-1 自己理解】 活動を振り返り、自分の特徴や良さを理解しようとしている。</p> <p>【⑧-2 他者理解】 大和町の魅力を発信するための商品開発で他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。</p> <p>【⑨-1 主体性】 商品販売イベントに向けて、自分の良さを生かせる課題を選択し、取り組んでいる。</p> <p>【⑨-2 協働性】 自他の良さを生かしながら協力してグループの問題の解決に取り組んでいる。</p> <p>【⑩将来展望・社会参画】 今後も大和町の課題解決に向けて、自分にできることに取り組もうとしている。</p> |

7 本単元で特に育成しようとする資質・能力について

本校で育成しようとする資質・能力は、以下の5点である。

| | | |
|----------------|---------|------------|
| 【知識及び技能】 | ①知識及び技能 | |
| 【思考力・判断力・表現力等】 | ②情報活用能力 | ③言語能力 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | ④主体性 | ⑤自己理解・他者理解 |

この中から、本単元において育成しようとする資質・能力との関わりについて、次の点に重点を置くものとする。

③言語能力（伝える）

本単元における言語能力（伝える）とは、事実（アンケート結果および米粉の特徴）と意見（自分たちの商品に対する考え）を区別して伝える力のことである。

| 尺度 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|--------|---|--|--|--|
| | C | | B | A |
| 中学校区共通 | 事実と意見を区別しておらず、詳しい説明を付け加えて伝えている。 | 事実と意見を区別していないが、詳しい説明を付け加えて伝えている。 | 事実と意見を区別して伝えている。 | 話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見を区別して伝えている。 |
| 本単元 | 事実(アンケート結果および米粉の特徴)と意見(自分たちの商品に対する考え)を区別しておらず、商品の特徴を説明できていない。 | 事実(アンケート結果および米粉の特徴)と意見(自分たちの商品に対する考え)を区別しないが、商品の特徴を説明している。 | 事実(アンケート結果および米粉の特徴)と意見(自分たちの商品に対する考え)を区別して伝えている。 | 事実(アンケート結果および米粉の特徴)が意見(自分たちの商品に対する考え)にどのように生かされているのか関係を整理して説明している。 |

8 指導と評価の計画（全 40 時間）本時 17/40

| 次 | 時 | 学習内容 | 生徒の思考の流れ | 観点 | | | ◇教科の評価規準【資質・能力】 (評価方法) |
|---|---|--|--|----|---|---|---|
| | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一 | 1 | 目標：地域の課題を理解し、今後取り組むべきことを考えよう。 | | | | | |
| | 2 | ○企業からの依頼を受け、今後の見通しをもつ。 | ・コンセプトは「多くの人に米粉の魅力を知ってもらうこと」だな。 ・まずはターゲットとジャンルを決める必要があるな。 ・米粉の特徴について自分たちが理解する必要があるな。 | | | | |
| 一 | 3 | 目標：コンセプトを達成するために必要な情報を集めよう。 | | | | | |
| | 7 | ○アンケートを作成し、実施する。また、米粉の特徴について調べる。 ・小麦粉との違い ・長所と短所 | ・空港で人気の商品がわかれば、そこからヒントを得て、ターゲットやジャンルにつなげることができそうだからアンケートを実施しよ | | ⑤ | | 商品開発に必要な情報を収集する手段を選択し、種類に合わせて情報を蓄積している。【⑤情報の収集】（ワークシート） |

| | | | | | |
|---------------|--|---|---|---|---|
| 16 ～ 17 | 目標：これからの目標と取り組む課題を設定しよう。 | | | | |
| | ○これからの目標を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「たくさんの人」っていうのは、三原市や大和町の人を中心に知ってもらいたい。 ・米粉を介して、大和町にも興味をもってもらいたいな。 ・取組のゴールの大和町が盛り上がった姿は、大和町に行ってみたい人や住みたい人が増えた状態だな。 ・今回は、特産品の米粉を介して、大和町の認知度を高めて、大和町を盛り上げたいな。 | | | |
| | ○今後取り組むべきことを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・魅力を伝える方法として、商品販売以外にもトークショーなどもあると思うな。 ・三原市や大和町の人に来てもらうためには、広報をしないとイケないな。 | | ④ | 大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をすべきか見通しをもって計画を立てている。【④-2課題の設定】(ワークシート) |
| 18 ～ 20 | 目標：知りたいことを専門家に教えてもらおう。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○CFの基礎について講師より学ぶ。 ○ラジオ配信について講師より学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・準備だけでなく、活動の報告が必要になるんだな。 ・原稿を書くのは苦手だけど、話すことはできそうだな。 | | | |
| 21 ～ 26 | 目標：グループごとに準備をすすめよう。 | | | | |
| | 【グループごとに実施】 ○講師からのアドバイスをもとに、原稿を書いたり、看板・POP・装飾品等を作成したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分は文章を考えるのが得意だから、POP作りに参加するぞ。 | ② | ⑨ | 米粉の魅力の発信活動(商品開発、商品販売イベント)を、目的や対象に応じて適切に実施している。 【②技能】(行動観察) 商品販売イベントに向けて、自分の良さを生かせる課題を選択し、協力して取り組もうとしている。 【⑨-1主体性】(行動観察) |
| 27 ～ 30 | 目標：プレイベントで次の課題を見つけよう。 | | | | |
| | 【グループごとに実施】 ○CFのWebサイトに掲載、ラジオ放送のデータ収録、SNSでの情報発信を | <ul style="list-style-type: none"> ・原稿を考えるのが得意な人、話すのが得意な人で分担して作業すればお互いの良 | | ⑨ | 自他の良さを生かしながら協力してグループの問題の解決に取り組んでい |

| | | | | | | | |
|---------|---|---|---|---|--|--|--|
| | | <p>する。</p> <p>○体育館でボランティアを対象にプレイベントを実施する。</p> | <p>さを生かせるな。</p> <p>・うまくいかなかったところがあるから共有して、修正したいな。</p> | | | | <p>る。【⑨-2 協働性】(行動観察)</p> |
| 三 | 31 | 目標：プレイベントの問題点から今後取り組むべきことを考えよう。 | | | | | |
| | ~ 32 | <p>○プレイベントの問題点を出し合い、今後の見通しを持つ。</p> <p>○プレイベント参加者からの意見をもらう。</p> | <p>・プレイベントに協力してくださる人のおかげで、自分たちの取組がより良いものになっているな。</p> <p>・運営側からはわからなかったが、参加者側はこんなことを問題に感じていたんだな。</p> <p>・トークショーについて指摘もらったから、イベントを運営している人に話を聞いて、そこから改善案を考えて修正しよう。</p> | ① | | | <p>大和町の魅力発信の実現には、そこに存在する問題の解決に向けて、学校や地域が目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。【①知識】(ワークシート)</p> <p>プレイベントの反省を踏まえ、商品販売イベントに向けて必要なことを設定している。【④-1 課題の設定】(ワークシート)</p> |
| | 33 | 目標：知りたいことを専門家に教えてもらおう。 | | | | | |
| | ~ 34 | <p>○トークショーについて講師より学ぶ。</p> <p>※プレイベントの結果に応じて、内容を変更する。</p> | <p>・参加型のトークショーにすれば、自分事として情報を受け取ってくれるんだな。</p> | | | | |
| | 35 | 目標：本番に向けて、イベントの運営計画を改善しよう。 | | | | | |
| ~ 37 | <p>○プレイベントの問題点をもとに、本番の改善案を考える。</p> | <p>・トークショーでは、こんなコーナーを設定した方が良いな。</p> <p>・時間を短くした方が良いな。</p> <p>・人数を増やした方が良いな。</p> | | | | | |
| 38 | 目標：取組の成果を確認し、活動を振り返ろう。 | | | | | | |
| ~ 40 | <p>○広島空港で販売イベントを実施する。</p> <p>○これまでの取組をまとめ、CFに協賛された方や地域の方へ報告をする。</p> | <p>・宣伝をしたからたくさんの方が来てくれたな。</p> <p>・プレイベントの反省を生かすことができたな。</p> <p>・アンケート結果から大和町に行ってみたいと思っている人がいるから取組のゴ</p> | | | | | |

| | | | | |
|--|-----------------------------------|---|---|--|
| | <p>○ 1年間の取組（学習内容、資質・能力）を振り返る。</p> | <p>ールは達成できたな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちだけでなく、地域の方のおかげでたくさんの人に魅力を伝えることができたな。 ・活動の中で自分には、人前で堂々と話すことができるよさがあることがわかったな。 ・今後も大和町の課題解決に向けて、自分にできることに取り組みたいな。 | ③ | <p>⑧ 大和町が抱える課題に対する学校と地域の取組についての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。【③探究的な学習のよさの理解】（振り返りシート）</p> <p>活動を振り返り、自分の特徴や良さを理解しようとしている。</p> <p>【⑧-1自己理解】（振り返りシート）</p> <p>今後も大和町の課題解決に向けて、自分にできることに取り組もうとしている。【⑩将来展望・社会参画】（振り返りシート）</p> |
|--|-----------------------------------|---|---|--|

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○ 大和町を盛り上げるための販売イベントに向けて、目的を明確にしながら計画を立てることができる。

(2) 観点別評価規準

○ 大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をすべきか見通しをもって計画を立てている。

【思考・判断・表現（④-2課題の設定）】

(3) 本時の学習展開

| | 学習活動 | ○指導上の留意点 ◆努力を要する生徒への指導の手立て | ◇教科の評価規準 (評価方法) |
|--------|--|--|--------------------|
| 導 入 | <p>○前時の内容を想起する。</p> <p>○学習目標を把握する。</p> | <p>○前時に生徒が設定した今後の活動の目標（この取組の最終目標）を示す。 「大和町産の米粉の知名度を上げて、大和町を盛り上げよう」</p> | |
| | <p>本時のめあて 大和町を盛り上げるための販売イベントに向けて、目的を明確にしながら計画を立てることができる。</p> | | |

| | | | |
|-------------|--|--|--|
| 展 開 | <p>○取組の最終目標の達成に向けて、必要なことを考え、発散的に書き出す。 マインドマップ作成</p> <p>発問1：商品以外の方法で魅力を伝える方法はないかな？</p> <p>発問2：どうすればたくさんの三原市や大和町に関係する人に来てもらえるかな？</p> <p>発問3：発問1・2で出てきたことをやるだけで当日はうまくいくかな？</p> <p>○発散的に書き出したことの中から、必要なことを優先順位で精査し、時間軸で整理する。</p> | <p>○教師、地域の方は「なぜそれが必要なのか」「この取組の最終目標にどうつながっているのか」「どうやって確認するのか」問い返し、最終目標とずれていれば必要に応じて、助言をする。</p> <p>◆小学5年生の時のレンコン餅販売の活動とその目的を想起させる。</p> <p>○優先順位をXYチャート（効果があるかどうか、実現可能かどうか）で整理する。</p> | <p>◇大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をすべきか見通しをもって計画を立てている。【④-2課題の設定】（ワークシート）</p> |
| ま と め | <p>本時のまとめ：（本時で決まったことを板書に示す）</p> | | |
| | <p>○R80を記入する。</p> <p>○R80をシェアリングする。</p> | <p>○振り返りの視点を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時発揮した資質・能力 ・次回への見通し <p>◆R80のひな型を示す。</p> <p>「本時で今後取り組むべきことを明確にできた。なので、次回は・・・。」</p> <p>「本時で～を発揮できた。なぜならば、～できていたから。」</p> | |

(4) 板書計画

めあて：大和町を盛り上げるための販売イベントに向けて、目的を明確にしながら計画を立てることができる。

| 日付 | やること | やることをするために必要な情報 |
|-----|----------------------------------|-------------------------|
| 10月 | 開発商品決定 ゴール決定 | |
| | 資金調達 | クラウドファンディングのやり方 |
| | 宣伝（イベント） | SNSなど、どの宣伝方法が適しているか |
| | イベント準備 ・宣伝（商品、大和町） ・トークショー | パッケージデザイン 話す内容、ゲスト依頼 |
| | プレイベント ・役割分担 | イベントの進め方（専門家） |
| | アンケート作成 | |
| 2月 | 販売イベント（米粉・大和町の魅力発信） アンケート実施 | |